

# 時事新報

第十二百五十八號  
明治十九年四月廿四日  
舊丙戌三月廿一日  
上  
甲

日入午後六時三十九分  
月出午後十一時五十五分  
入午前九時三十四分

訴訟用印紙料 金三十九萬六百二十九圓○第五項 北  
海道物產稅 金五十三萬八千三百十六圓○第六項 米  
商會所稅 金三十一萬三千三十一圓○第七項 框式取  
引所稅 金七萬三千二百九十四圓○第八項 酒造稅 金  
一千四百八十四萬三千三十九圓○第九項 船隻營業稅  
金三萬七千八百圓○第十項 船油稅 金白二十六萬六  
千五百十圓○第十一項 莫士稅 金四十萬圓○第十  
二項 煙草稅 金百五十萬千百八十四圓○第十三項  
賣藥稅 金三十五萬五千六百三十六圓○第十四項 船  
稅 金二十三萬千百六十九圓○第十五項 車稅 金四

十七萬八千一百五十九圓○第十六項 度量衡 金一千三百四十四圓○第十七項 牛馬貢賈免計稅 金七萬三千四百八十二圓○第十八項 錢糧免許稅 金五萬六千三百九圓

項  
海關稅  
金三百六十二萬七千七十四圓○第一項  
第三款  
過年度收入  
金三十一萬三千三百九十二圓○  
第一項  
內國稅  
金三十一萬三千三百九十二圓  
部合計金六千七百七十三萬三千九十五圓  
第一項

第一款 郵便及電信收入 金三百十八萬四千二百六十  
七圓○第一項 郵便收入 金二百三十萬一千三百九十九  
圓○第二項 電信收入 金八十八萬二千八百六十八圓

**第一款** 森林收入 金三十九萬三千一百九十三圓○  
**一項 貸下料** 金九千四十圓○ **第二項** 租下代金  
卅八萬三千三百五十三圓

**第一項** 官業收入 金二十八萬七千五百九十七圓○  
**第二項** 官有物貸下及拂下代 金四十七萬三千七百七十一圓○  
**第三項** 拂下代 金二十五萬千九百五十七圓○

**第五款** 免許及手數料 金十萬二千五百十六圓○第一項 免許料 金三萬二千六百八十二圓 第二項 手數料 金七萬九千八百卅四圓

**金四十七萬七千一百七十四**  
**第七款 雜收入 金九十一萬八千六百八十一圓○第一項 鐵山借匯稅 金一萬三千五百八十八圓○第二項 報賣下代 金十萬八千四百圓○第三項 徵罰及沒收金  
金三十三萬七千八百九十九圓○第四項**

金全四萬四百五十五圓○第五項 雜入 金四十一萬八千四百十四圓

十三圖 第二部合計金六百九十六萬二千二百廿圓 壓入總計金七千四百六十九萬五千四百十五圓(以下次號) (本年四月廿三日官報發外)

○ 大坂市中は不景氣 大坂よりの通信に當地は市中一般に連年の不景氣にて何をされ商家も商業と營みて損失と多くよりけ寧ろ節儉するに若かず其を定め退て守

の策を執るもの多事なるが今後商賈を大略爰に記せんに銀行へ就け日々ふ資金の返金あるのみみて借入は甚だ少く隨て日歩も漸次緩慢よしと更に引締る

へ兎模有あし、各會社は商業不振に従ひ物品の賣買少しが爲先利益ハ大ム減少平均例年の半額にも昇らざる有様あれを役員杯を減ヒ費用を節するの一方ふ傾き

居毛り、各商業者、各社會と同様て問屋向は物品の不捌あるが爲先賣残り商品之庫中より堆積しゐるを以て仕入を見合せ新に物品を買入るゝと少く中にも上等品は少くも捌き行かず下等品は少くも完賣れ退きるる

是れとて挙々しからず尤も本年一月以來は少しば景氣付たる模様あり、昨今市街に空家の多きい近年に見ざる程ふして現今戸數六萬餘戸の内凡そ四分通りは空家

なりと云へり其原因は從來船塲其他上等の地又於て商賣となすものの家賃の高死に恐れて其安き上町へ轉居する事也

*Journal of the American Statistical Association*, Vol. 33, No. 191, March, 1938.

月新考

食物されが主因にして同様其食物の中より菜食肉食の別に由りて國民心身の働き抑ち言葉と替へて云ふれを言へば其國文明富強の程度に大懸隔と生ずる点と事實歸屬の道理に於て新奇しく之を陳する要せざるあり依て理論は深くも逐はずされを事實例に照らし見るに西洋諸國毎年肉類の消費量高ハ
北米合衆國の人民一名ふ付
英國の人民 同
東洋人の人民 同
佛蘭西の人民 同
歐羅巴全洲の平均每人
次ふ然らず我日本人の肉食高文五百五十五度一〇

明治十三年	同	四五、三六一頭
明治十四年	同	五六、六二一
明治十五年	同	三六、二八八
明治十六年	同	三七、八七九
牛一頭代付外國種なれば肉平均三百五十斤を得らる れしと雖も日本種の矮小牛に向て平均此三百五十斤の 割合を立つるは過分過當の計算なれども暫くこれと許 し且つ日本人の肉食は牛の一種の外に羊豚の各種あり 其精費高は數據るべきもの無ければ其額僅少なら ざるものと假定して臨時よりれども牛肉同様の數額を與 へ然る後之と國の人口に割合するふ毎人一年の消費高 僅々八十匁内外にして若し單に牛肉は一種に付て計算 せば一人平均四十匁内外に過ぎざる割合あり統計の 誤あるものは今俄より難をなし唯、事の大体上極 めて寛か計算せるも日本にて畜産の肉の消費額は每人 一年一斤以上及ぶ能はざると見て事實に大相違ハ 無かるべとなり今假に人身と蒸発損耗と見て其口に食 入度を石炭と算へんならば日本人一人口怡も僅々一馬 力相當を以て耕作人は八十乃至百二十馬力と有す るものと算へば而て其活動能力の方に著しう相違と生 じる事無き也即ち明白なる所度我輩の申陳する通 り今の支那明治時代も一頭耕牛の修羅場にして國に生		

○勅令	十二月三十一日	四片八分ノ五	八片四分ノ一
	千八百八十三年		
	三月三十一日	五片八分ノ五	八片八分ノ一
	六月三十日	五片	八片八分ノ一
	九月三十日	五片	八片八分ノ一
	十二月三十一日	四片四分ノ三	八片八分ノ三
	千八百八十四年		
	三月三十一日	四片二分ノ一	七片四分ノ三
	六月三十日	四片六分ノ一	七片八分ノ五
	九月三十日	四片八分ノ三	七片二分ノ一
	十二月三十一日	四片八分ノ一	七片二分ノ一
	右倫敦市場三箇年間の牛肉相場最低の價一斤九錢五厘を除へずさて最高のもの尙ほ十七錢六厘と出でざるを		
官報	(未完)		

明治十九年四月廿一日	
內閣總理大臣伯爵伊藤博文	大藏大臣伯爵松方正義
第一項 地租 金六千四百七十九萬八千二十九圓○	第二項 國立銀行稅 金二十二萬千八百五十五圓○
第二項 國立銀行稅 金二十二萬千八百五十五圓○	第三項 證券印稅 金八十二萬五千八百八十九圓○
第四項	

居合り、各商業家の各會社と同様でて問屋向は物品の不捌あるが爲先賣残り商品之庫中より堆積しゐるを以て仕入を見合せ新に物品を買入るゝと少く中にも上等品は少々も捌々行クす下等品は少々宛賣れ退き居るも是れとて抜々しからず尤も本年一月以來は少しは景氣付たる模様あり。即今市街に空家の多きい近年に見る程ふとして現に日収六萬餘戸の内見そ四分通りは空家なりと云へり其原因は從來船場其他上等の地よ於て商賣となすものハ家賃の高死に恐れて其安き上町へ轉居